

地域と迎える 旭川神社の夏

屯田兵ゆかりの神社として120年間、地域の無病息災と五穀豊穣を守護してきた旭川神社。夏の祭事に合わせて夏詣と称し、地域の人々が神社に親しむ機会を創出しています。今年は新型コロナウイルスの影響から中止になるイベントもありますが、感染症の終息と、人々の笑顔が戻ることを願う旭川神社の姿を取材しました。



旭川発祥の地を見守る 屯田兵ゆかりの神社



上)参拝前に持ち上げて重さを
覚え、参拝後にもう一度石を持ち上げて、軽く感じるところ。
いが叶うとされる、おもかる石。感染症対策で毎日消毒されています(右)伊勢神宮から御分霊された主祭神の天照大御神の相殿神として祀られているのが木花咲耶姫命を祭神として本殿を造営。当時の村名である旭川兵村から名をつけたのが旭川神社の由緒です。厳しい環境で土地を開墾してきました屯田兵にとっては心の拠り所。現在も安寧や五穀豊穣を祈る鎮守として多くの人が訪れてています。



旭川神社
旭川市東旭川南1条6丁目8-14
TEL 0166-36-1818

夏詣 開催期間/6月30日~8月31日

6月30日 夏越の大祓
7月5日 頭熱神社英靈祭
8月14~15日 旭川神社例大祭

旭川神社公式ホームページ
祭事や祈禱についての案内を掲載しています。ブログ「まぎれ社務日誌」では神社の様子や出来事が更新されています。

App Store で「フリモAR」を検索
Google Play で手に入れよう



芦原さんに正しい参拝方法を聞きました。
フリモARで見られます。
ぜひ、覚えて参拝に行ってみましょう!

動物園通りを旭山動物園に向かって走ると、右側に車道をまたいだ、大きな鳥居が見えます。鳥居の先に鎮座するのは、旭川神社御社殿。すぐ近くには旭川小学校や旭川中学校が寄り添うように建ち、東旭川屯田公園も隣接しているため、子どもの頃に遊んだ記憶を思い出す人もいるでしょう。

明治25年、400戸の屯田兵が現在の東旭川地域に入植し、村社の建設が決議されました。翌年、天照大御神と木花咲耶姫命を祭神として本殿を造営。当時の村名である旭川兵村から名をつけたのが旭川神社の由緒です。厳しい環境で土地を開墾してきた屯田兵にとっては心の拠り所。現在も安寧や五穀豊穣を祈る鎮守として多くの人が訪っています。

旭川神社では平成30年に参画。期間中は境内に風鈴を飾つたり、御朱印に夏詣の判を押す。旭川神社では平成30年に参画。期間中は境内に風鈴を飾つたり、御朱印に夏詣の判を押す。

大祓では、災の元や罪穢れを祓い、平穏無事を祈願。葦の葉を束ねて巻いた茅の輪を境内に設置し、作法に沿って和歌を詠みながら茅の輪をくぐります。葦の緑が涼しさを感じさせる、風情のある祭事です。ここ数年は150人前後の参加があるといい、参加者には茅の輪のお守りを授与しています。

一方で、夏詣期間の7月に開催しているイベント、旭川神社エールは、境内に飲食店や手作り雑貨などの出店が軒を連ね、ダンスやライブなどのステージも行われる人気の催しです。イベント中は境内にある旭川兵村記念館も無料開放。屯田兵の開拓精神に触れてみようと、多くの見学者が訪れます。しかし今

など、夏の神社に足を運ぶきっかけづくりになっています。

夏詣のスタートを切る夏越の祓では、災の元や罪穢れを祓い、平穏無事を祈願。葦の葉を束ねて巻いた茅の輪を境内に設置し、作法に沿って和歌を詠みながら茅の輪をくぐります。葦の緑が涼しさを感じさせる、風情のある祭事です。ここ数年は150人前後の参加があるといい、参加者には茅の輪のお守りを授与しています。

地域の人たちに親しんでもらえる神社に



①夏詣期間中に掲げられる風鈴。短冊には願い事が書かれています。
②旭川神社エールで地元の中学生の吹奏楽演奏に聞き入る来場者
③昨年の参拝ツアーワークの様子。「天皇陛下御即位があり、奉祝事業などがあったせいか、参加者が大幅に増えました。神社に興味を持っていただけた方が多いこと」と芦原さん

夏の神社を楽しむ 夏詣を開催

夏の祭事が続くこの季節。旭川神社では暑い夏を清々しく過ごしてもらおうと、6月30日に行われる夏越の大祓から、7月と8月の2ヶ月間を「夏詣」として、夏の神社を楽しむための取り組みを実施しています。

冬は大晦日の大祓で罪穢れを

祓い、初詣で1年の平穏を願います。夏詣とは、夏越の大祓で初詣からの半年でついた罪穢れを祓い、残りの半年も平穏で過ごせるよう祈願するというもので、平成26年に東京の浅草神社が提唱しました。夏詣には決められた神社仏閣では独自の行事やイベントを開催。新しい風習として全国に広がりを見せています。旭川神社では平成30年に参画。期間中は境内に風鈴を飾つたり、御朱印に夏詣の判を押す。



上)毎年賑わいを見せる夏越の大祓。葦の葉は、できるだけ青々しさを残すため、前日に取りに行き、祭事が始まる直前まで日陰で控えておきます(左)参加者に配られる茅の輪。持ち帰ったら玄関前に飾ります



福宜 芦原 大記さん

芦原さんは表情を曇らせます。年は、新型コロナウイルス感染拡大防止策として開催を断念。楽しみにしてくださる方が多く、東旭川の歴史を知つてもらえ、心に寄り添う存在であります」と、福宜の芦原大記さん

このイベントは、地元の子どもたちの活躍の場でもあります。例えば、旭川小学校や旭川中学校の生徒たちは、ステージで吹奏楽部の演奏を披露し、出店で販売した飲料の収益を活動資金に充てていました。それだけに、子どもたちにも申し訳ないと、

このイベントは、地元の子どもたちの活躍の場でもあります。例えば、旭川小学校や旭川中学校の生徒たちは、ステージで吹奏楽部の演奏を披露し、出店で販売した飲料の収益を活動資金に充てしていました。それだけに、子どもたちにも申し訳ないと、

芦原さんは表情を曇らせます。価値観が多様化した現在、地域との新しい関わり方を模索する神社は全国に数多くあります。夏詣の参画も、旭川神社エールの開催も、もっと人々に親しまれ、心に寄り添う存在であります」と、福宜の芦原大記さん

芦原さんは表情を曇らせます。神社に親しんでもらう試みについて、地域の人からアドバイスを受ける場合もあるそうです。神社に興味を持つ人のために福宜が案内する神社参拝ツアーは、こうした助言を受けて実現しました。旭川神社エールに合わせて開催し、境内を巡りながら参

拝方法や社殿の造りなどを説明

するもので、昨年は2日間で100人ほどが参加。「正直、こんなに参加していただけるとは思いませんでした。皆さんからとても面白かったと言っていたとき、「やつてよかったです」と、芦原さんは笑顔を見せます。

例大祭を含めた祭事は開催を予定しているものの、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年に比べて規模を縮小するという旭川神社。それでも日課で、悩みを抱えて、参拝する人はいます。そんな人々のために毎朝の清掃は欠かせません。「きれいな境内で清々しい気持ちになつてもらいたいですか」と芦原さん。毎日の朝拝では新型コロナウイルスの終息を祈願し、地域の人々が神社に集う日常が戻るのを待っています。